



八戸ブックセンター 企画事業報告書 (令和5年度版)

観光文化スポーツ部
文化創造推進課 八戸ブックセンター



目次

八戸ブックセンターの基本方針	1
取り組みの全体像.....	2

セレクトブックストア	3
------------------	---

「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」 「本でまちを盛り上げる」ための企画事業

本のまち読書会.....	4
アカデミックトーク.....	5
執筆・出版ワークショップ	6
ギャラリー展	7
パワープッシュ作家.....	8
本のまち八戸ブックフェス	9
ブックサテライト増殖プロジェクト.....	10

さまざまな機関との連携

こどもたちに向けて	11
さまざまな機関との連携.....	12

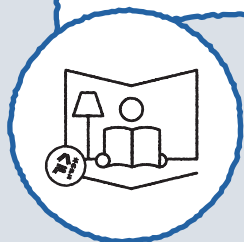
施設の活用	13
参考データ① 令和5年度八戸ブックセンター決算額.....	14
参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移.....	15

八戸ブックセンターの基本方針

八戸ブックセンターは、全国初の、まったく新しい書店のかたちです。

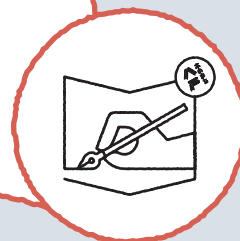
1. 本を読む人をふやす

八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。



2. 本を書く人をふやす

当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。



3. 本でまちを盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。



八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

取り組みの全体像

八戸ブックセンター

書店の機能を持ち合わせた公共施設で、本の販売という単一の機能に留まらない、本を通した市民交流及びまちづくりの拠点施設としての3つの機能



①セレクト・ブックストア機能

テーマ別の陳列などにより、本との偶然の出会いを創出すると合わせて、本を「私有」して読む体験を促します。

②「本のまち八戸」の拠点機能

「本のまち八戸」を推進する拠点施設として、民間書店や公立・学校図書館、マイブック推進事業との連携やサポートを行います

③本に関する企画実施機能

八戸ブックセンターの企画運営方針（基本計画書）に沿って各種企画事業に取り組みます。

連携やサポート

連携やサポート

連携やサポート

民間書店

- 地方の民間書店で取り扱いにくい本を八戸ブックセンターで揃えるなど、差別化・補完することで、面的に地域として市民が本に出合う環境を豊かにします。
- 八戸ブックセンターがハブとなり、民間書店（員）の連携・交流の機会をつくるほか、市外の個性的な書店経験者を招いた勉強会などの機会を通して、民間書店の魅力づくり強化のための支援を行います。
- マイブック推進事業（ブッククーポン）や、八戸ブックフェス、パワープッシュ作家などの取組を通し、民間書店での本の購入を促進します。

公立図書館

- ブックフェスなど企画での連携を図ります。
- 絶版本など購入ができない書籍への問合せに対応した情報提供を行います。

学校（図書館）

- 市内小中学校を訪問しての「出張ブックトーク」を行います。
- 市内小中学生を対象とした読書ワークショップの実施や職場体験への協力をします。
- 学校図書館司書研修会において、こどもの本についての情報提供をします。
- 高校生対象の読書ワークショップや文芸大会の連携を行います。
- 八学大、八工大、八戸高専学生が大学・学校図書館に配架する本の選書をするブックハンティングなどを実施します。

公共・民間施設

はっちや美術館を中心とした公共施設のほか、民間施設・団体と連携し取り組むことで、企画内容の充実や回遊促進のほか、市内各所で本に触れる機会を提供するなどの相乗効果を図ります。

セレクトブックストア

本を買って手にとるという体験／市直営施設がなぜ本を販売するのか



リニューアルした新しいエリア

「暮らしと絵本」棚

ブックセンターの幅広い利用を促すため、市民アンケートで寄せられた意見を参考に、令和5年12月に棚のリニューアルを行いました。こどもや子育て、暮らしのテーマ棚を新設したほか、おはなし会などのこども向けイベントの開催も始めたことにより、絵本などを手に取りながら時間を過ごす親子連れが増えています。



おはなし会の様子（令和6年4月）

品揃えの補完（民間書店との棲み分け）

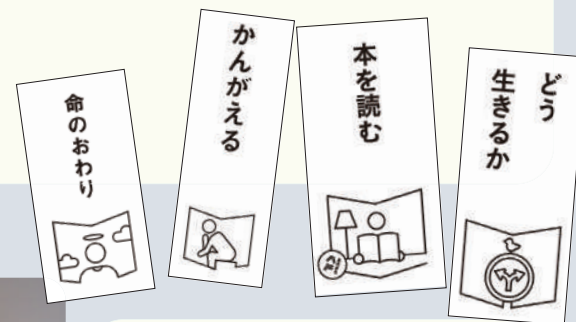
公共サービスとしての役割

書店は知的情報インフラであり、書店が無くなると、大型書店がある大都市と地方都市の文化的環境の格差がますます大きくなっていくという課題を解消。図書館だけでなく、本を買って手に取る体験ができる書店など、知識を得るためのプロセスを公共サービスとして複数用意。

偶然出会う本（未読ジャンルへの誘い）

「出版物は全部置く」都心の大型書店とは異なり、様々なジャンルの入口となる本を「敢えてセレクトして並べる」ことでこれから出会う未読ジャンルへの選択肢を提案。

館内棚カテゴリの一例)



本の塔の周りでの展開

雑誌「母の友」（福音館書店）の、70周年＆リニューアルを記念してのフェア。こどもも、そして「親自身」も大事というメッセージがこめられた「母の友」をご紹介することにより、これからの子育てについて考えるきっかけを作ることができました。



本のまち読書会



書評家・杉江松恋ミステリートーク2days「ミステリーって何？そこから広がる読書の世界」
(令和6年3月16日 会場：はっち)

ゲストを招いた読書会

作家や編集者、書評家、出版社などからゲストを招き、普段の読書とは違う目線からの話を聞けるトークイベントなどを通して、さらに深く本を楽しむきっかけに繋がっています。

また、イベントをきっかけに、参加者による新たなコミュニティがえられるなど、ブックセンターが市民活動の場にもなっています。



杉江松恋さんと読む！「アガサ・クリスティ深読み読書会」
(令和6年3月17日 会場：はっち)



新たなジャンルへの入口

ミステリー書評家の杉江松恋さんを招き、ブックセンターでこれまで積極的に扱ってこなかった、ミステリーに関するトークイベント、深読み読書会などのほか、特設棚も設置し、ミステリーの楽しみ方を伝える企画になりました。

アカデミックトーク



【アカデミックトーク】「ベンと私 竹内修司さん大いに語る」
(令和5年6月24日 会場：はっち)



【アカデミックトーク】「ガリツィア：本で触れるヨーロッパの多様性と緊張 - 世界は「最果ての地」をどう見る？」
(令和5年11月26日)

多元的社会の構築についてわかりやすく

「ガリツィア：本で触れるヨーロッパの多様性と緊張 - 世界は「最果ての地」をどう見る？」では、ガリツィア地方の歴史などについて、関連書籍を使い、八戸との類似点なども織り交ぜながらのトークで、ロシア・ウクライナ戦争の影響もあり、多くの参加者から活発に質問が出されるイベントになりました。

知的好奇心を刺激する

教育機関や文化施設などから講師を招いての、本を軸にしたアカデミックなトーク。各分野からの専門的なお話により、本に対する興味を沸き立たせます。

また、トークに合わせて、各講師に選書していただいた「ひと棚」を展開し、さらに理解を深められるような仕掛け作りをしています。

多様なゲストで幅広い世代の方に

「ベンとわたし 竹内修司さん大いに語る」では、文藝春秋編集者でもあった、八戸出身の竹内修司さんを招き、現役時代に出会った作家たちとの思い出などを語ってもらいました。八戸ペンクラブと共催での開催となり、ペンクラブの歴代会長との思い出も語っていただくなど、満席となった参加者からは大変好評なイベントになりました。

令和5年度実施状況

「RAB 青森放送×青森県立美術館『庵野秀明展』開催記念トークイベント」

(ゲスト：青森放送 井畑康明氏、青森県立美術館 工藤健志氏)

「ベンと私 竹内修司さん大いに語る」(ゲスト：元文藝春秋編集者 竹内修司氏)

『AIR：まち、人、アートをつなぐポテンシャル』刊行記念トークイベント

(ゲスト：女子美術大学 日沼禎子氏、国際芸術センター青森 慶野結香氏)

棟方志功生誕120年スペシャルトークイベント(ゲスト：棟方志功記念館 竹浪彩子氏)

「ガリツィア：本で触れるヨーロッパの多様性と緊張 - 世界は「最果ての地」をどう見る？」

(ゲスト：八戸工業高等専門学校 佐伯彩氏)

「寺山修司記念館企画展『ポスト・テラヤマ1983-2023』解説 寺山修司が見つめるその先

(ゲスト：寺山修司記念館 広瀬有紀氏)

「What is ALT? 八戸のALTさんと英語で話そう」

(ゲスト：ALT(外国語指導助手) クリサンタ・カストロ氏、キャスリーン・メイ・ヴィクトリア氏)

『荒木悠 LONELY PLANETS』刊行記念上映・トークイベント

(ゲスト：映像作家・アーティスト 荒木悠氏、十和田市現代美術館 中川千恵子氏)

えんぶり考察編「調べた、そして、考えた、私の「えんぶり」考」

(ゲスト：えんぶり研究者 戸来元氏)

青森の魅力を総括！走り出す「AOMORI GOKAN アートフェス」と、線路を降りる

「とある学芸員」のささやかな試み (ゲスト：青森県立美術館 工藤健志氏)

執筆・出版ワークショップ



HACHINOHE ZINE CLUB ワークショップ
(令和6年2月17日 会場：美術館)

専門家に「書く」ことを教わる

書評家の杉江松恋さんを講師に招き、市民作家を対象とした「書き方相談」を開催。事前予約による少人数限定での実施ではありましたが、自身の作品を事前に杉江さんに送付し、当日は一人ずつ個別に相談をするという贅沢なプログラムで、参加者からは、質問に対する具体的なアドバイスももらい、貴重な時間を過ごすことが出来たとの感想をもらっています。

「つくる楽しさ」を体験・共有

実際に ZINE などを制作している方に声をかけて、令和5年3月に活動が始まった「HACHINOHE ZINE CLUB」。文章を書くだけでなく、絵や漫画を描く人、写真を撮る人などさまざまなジャンルの人が情報交換やワークショップなどで定期的に集まり、9月に開催した「本のまち八戸ブックフェス」ではメンバーによるブース出店が叶いました。その後も、展示や出店といった共通目標に向かって活動を続けています。



ZINE の販売ブース
(令和5年9月24日 会場：マチニワ)



杉江松恋さん「書き方相談」

参加者からの声

- ・技法やキャラの立て方、伏線の活かし方のほか、公募選考時に評価される箇所など、専門的なアドバイスをいただけて大変参考になった。
- ・編集者など、出版に向けたアドバイスがもらえる機会や「書く人」が集まるイベントがあれば参加したい。

ギャラリー展



「羽仁もと子生誕 150 年記念 羽仁もと子とわれらの研究室」展（令和 5 年 12 月 2 日～令和 6 年 2 月 25 日）



「絵本探偵・小野明 presents 絵本で発見“青”と“森”と“八”と“戸”」（令和 5 年 6 月 14 日～8 月 28 日）

本を通して、ふるさとの偉人を知る

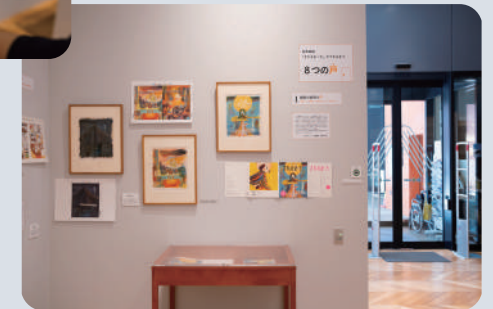
「羽仁もと子とわれらの研究室」では、雑誌「婦人之友」を創刊した八戸出身の羽仁もと子の生誕 150 年を記念し、彼女の功績を紹介展示しました。彼女が歩いた八戸のスポットを地図にしてまとめたり、彼女の著作や、創立した自由学園で制作している雑貨なども販売しながら、地元出身の偉人について、多くの方に知っていただく貴重な機会を創出することができました。

また、羽仁もと子の実妹・千葉クラの曾孫である岡本潤子氏（千葉学園校長）と展示デザインを手がけた佐々木遊氏のトークイベントも開催しました

自由学園や婦人之友社の関係者も参加し、自分の中の羽仁もと子はどのような存在かなどを語り合いました。



飯田竜太+太田泰友 二人展
「ブック/オブジェクト/アート」
（令和 5 年 9 月 9 日～11 月 12 日）



「絵本雑誌・さがるまーたができるまで」
（令和 6 年 3 月 9 日～5 月 12 日）

“本”を切り口にしたさまざまな展示

開館以降、本との出会いや、知的好奇心を刺激するような企画により、来館者の方に楽しんでもらっています。「絵本探偵・小野明 presents 絵本で発見“青”と“森”と“八”と“戸”」では、絵本編集者の小野明さんにご協力いただき、ひとつの漢字から連想される絵本をご紹介します、さまざまな角度から絵本を楽しむきっかけづくりを創出しました。

パワーブッシュ作家



「バカ塗りの娘」公開記念 パワーブッシュ作家・高森美由紀



高森美由紀さんトークイベント
(令和5年9月24日 会場：はっち)

三戸在住作家・高森美由紀さんのデビュー作『ジャパン・ディグニティ』の映画化にあわせ、高森さんをお招きしたトークイベントや、映画のパネル展を開催しました。八戸市内の書店に参加を募り、高森さんの書き下ろしエッセイをプレゼントするキャンペーンも実施。書店同士でSNSでのおしらせをシェアし合い、盛り上げる様子もありました。

江戸時代中期に八戸に在住していた、思想家・安藤昌益の生誕320年・没後260年を記念し、極めて独創的であった安藤昌益の思想に触れてもらえるよう、2日間に渡ったイベントを開催しました。約100名が参加した一般向けシンポジウムのアンケートからは、安藤昌益という名前は聞いたことがあるけれどよく分からないという市民の参加者からも高評価を得ており、八戸市公民館ホールでの一人芝居「^{たびだ}出立つ日」公演など、多くの方々に八戸に関係する偉人について知ってもらえるイベントとなりました。

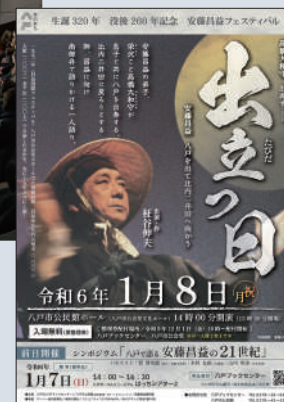
「生誕320年・没後260年
安藤昌益フェスティバル」



シンポジウム「安藤昌益の21世紀」
(令和6年1月7日 会場：はっち)



榎谷伸夫一人芝居「^{たびだ}出立つ日」公演
(令和6年1月8日 会場：公民館ホール)



本のまち八戸ブックフェス



一箱古本市・古書店ブース
(はっち会場)



(マチニワ会場)

マチニワ会場では、各ブースでの販売やサイン会などのほか、地元DJによる音楽で会場を盛り上げています。

市民が本に触れる機会をつくる

年に1度、中心街（はっち、マチニワ、ブックセンター）で開催する「本のまち八戸ブックフェス」。前回に引き続き、市民参加型の一箱古本市を始め、書店、出版社、飲食店などのほか、令和5年度は「二大取次」「南郷図書館・図書情報センター」など、新たなブースもつくり、過去最大の出店数で会場を埋め尽くしました。こどもから年配の方まで、全世代が楽しめる多彩なイベントを企画しており、来場者、出店社からは来場者間の交流もできると評判が良く、継続しての開催を希望する意見をいただいています。



さがしっこイベント

回遊型イベント「ヨシタケシンスケのイラストをさがせ！」では、予想を大幅に上回るこどもたちに参加いただきました。

移動図書館車

市内各地域のステーション約50カ所を月1回ごとと巡回している移動図書館車もやってきて、当日展示と貸出もしました。



(マチニワ会場)

令和5年度実施状況 (9月25日実施)

- 一箱古本市 (14店舗)
- 市内書店、古書店ブース (9店舗)
- 出版社ブース (9社)
- 市民作家 HACHINOHE ZINE CLUB ブース
- 飲食店ブース (5店舗)、DJブース
- 二大取次ブース (トーハン・日本出版販売)
- 学校図書館ブックリサイクルフェア
- 移動図書館車展示貸出
- おすすめ絵本展、お楽しみおはなし会
- 映画「バカ塗りの娘」パネル展原作者・高森美由紀さんトーク&サイン会
- キッズペディア『マークの図鑑』クイズであそぼう！
- ヨシタケシンスケのイラストをさがせ！ (3会場回遊イベント)

ブックサテライト増殖プロジェクト

青い森信用金庫 八戸市内全 15 店



本店営業部



湊支店



本店営業部鍛冶町出張所



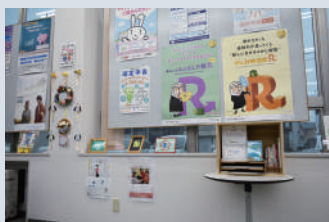
白銀支店



鮫支店



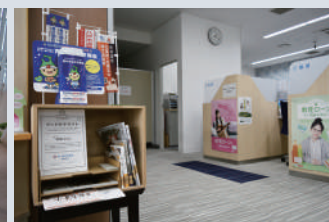
廿三日町支店



八戸桔梗野支店



類家支店



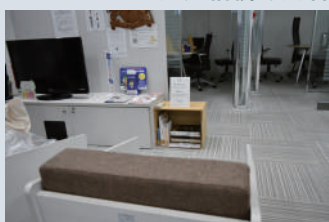
沼館支店



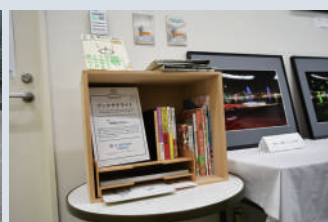
根城支店



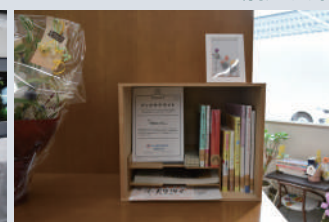
八戸駅通支店



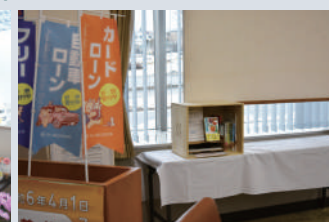
河原木支店



中居林支店



南類家支店



新井田支店

市内全域に広がる本棚スポット

市内の小売店や飲食店、公共施設などに呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本棚を設置。本箱の中にはそれぞれの店舗に合わせた選書をしており、ちょっとした時間を過ごすところに、その場所にあった本棚がある「まち」を目指します。今年度は、八戸市内の青い森信用金庫の全店（15店）に本箱が設置され、市内全域に広がる本棚スポットづくりの後押しとなりました。すべてのお店で「地域とともに」というテーマになっており、地域ゆかりの本や、利用されるお客様の年齢層・興味に合わせた本などを選書しています。

他にも・・・

八戸市立市民病院周産期センター

「いのちのふしぎ」というテーマで、自然のなかで生きるさまざまな生命や、ヒトのからだに関する本を集めました。ヒトが生まれたのはなぜか、どのように進化したのか、からだがどのようなしくみになっているかなどを知ること、自分やまわりの人、そして生まれてくる赤ちゃんのいのちの尊さに、改めて気づくことができるかもしれません。

ブックサテライト参加施設

- ・青い森信用金庫全店（15店）
- ・ドトールコーヒESHOP八戸十三日町店
- ・スターバックスコーヒー（八戸田向店、八戸城下店）
- ・八戸市水産科学館マリエント
- ・八戸市博物館
- ・八戸市立市民病院 周産期センター
- ・八戸市美術館

こどもたちに向けて



絵本編集者・小野明氏による絵本講座「絵本を探検する」
(令和5年6月30日 会場：美術館)



親子にむけたワークショップ

学校司書が中心となり、市内の小学校を訪問し、おすすめの本を紹介する「出張ブックトーク」を実施しています。また、月1回行われる研修会や、ブックセンター主催の作家などによるトークやワークショップにも学校司書が参加しており、子どもと本が出会える環境づくりを目指して、こどもの本についての意見交換などを行っています。

マイブック推進事業での連携

市内の全小学生へ2000円分のマイブッククーポンを配付し、書店で本を買う体験を勧めています。ブックセンターでは、クーポンと共に配付する「おすすめブックリスト」を作成をしています。



ブックリスト「本はともだち」



本に触れる機会づくり・情報発信

子育て支援課の「はちすくLINE」事業（子育て中の方に向けたLINEでの情報発信）で、ブックセンターからもおすすめの本を紹介するなど、親子で本に触れる機会づくりに力を入れています。

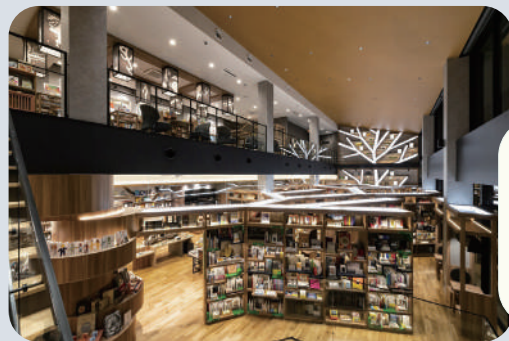


さまざまな機関との連携

全国の図書館、教育機関などとの連携



三八・上北地区高等学校図書委員研修会「各校の図書館を見せてもらおう！」
(令和5年12月13日 会場：はっち)



令和4年9月、福井県敦賀市に、
八戸ブックセンターの事例も参考
とした公設書店「ちえなみき」が
開館しました。

学生が本と出会う場を創出する

市内の高専生、大学生によるブックハンティング（学校・大学図書館に配架する本を学生自ら選書するもの）を実施しています。



(令和5年度実績)
八戸学院大学 (7名参加)
八戸工業大学 (計2回8名参加)
八戸高専 (16名参加)



ブックハンティングでは…

学生とブックセンタースタッフで、「なぜ、その本を選んだか」など本についてのディスカッションも行い、本に対する知的好奇心を深めることに繋がっています。

全国の図書館、教育機関等との連携

数多くの視察を受け入れているほか、全国各地からの依頼により「本のまち八戸」の取り組みを紹介することにより、八戸のPRにも繋がっています。

(令和5年度実績・視察受け入れ件数)

69件：500名

(令和5年度実績・事例発表)

- ・ 岡山県図書館協会セミナー (主催：岡山県図書館協会)
- ・ 第109回全国図書館大会岩手大会・出版流通分科会 (主催：同大会実行委員会)
- ・ 「まちに本屋は必要か 青森の町づくり×書店を考えるシンポジウム」 (主催：AOMORI STARTUP CENTER)
- ・ 「本の場」ウェブミーティング (主催：本棚演算株式会社)

施設の活用

読書会ルーム



市内読書団体への貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業に活用しています。一般的な読書会だけではなく、句会・短歌会や紹介型の読書会など、多様な使い方があり、利用されている方からは、落ち着いた雰囲気の中、館内の本を読むこともでき、気軽に利用できるのご意見をいただいています。

	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
令和元年度	73件	6.1件	42件	3.5件
令和2年度	50件	4.2件	32件	2.7件
令和3年度	52件	5.2件	14件	1.4件
令和4年度	87件	7.3件	16件	1.3件
令和5年度	152件	12.7件	23件	1.9件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

カンヅメブース



本などを執筆したい人向けに貸出しており、利用するには、活動内容などを教えていただき「市民作家登録」をしていただいています。趣味で執筆している方のほか、小説やエッセイを執筆するプロの作家、ライターの方など、幅広い利用があり、利用されている方からは、執筆に集中できるとのご意見をいただいています。

	市民作家登録者		利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
令和元年度	41名	235名	204件	17.0件
令和2年度	24名	259名	278件	23.2件
令和3年度	15名	274名	190件	19.0件
令和4年度	28名	302名	307件	25.6件
令和5年度	17名	319名	309件	25.8件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

参考データ① 令和5年度八戸ブックセンター決算額

【歳入】

単位：千円

科 目		金 額	
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分）	418
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	20,090
	諸収入	電気等使用料	82
		書籍売上収入	11,805
		その他雑入（講師謝礼等）	133
小 計		32,528	
一般財源		63,072	
歳入合計		95,600	

【歳出】

A. 選書、企画事業の実施に係るもの

単位：千円

科 目		金 額
人件費	職員3名、会計年度任用職員4名	43,183
報償費	自主事業謝礼	2,055
旅費	自主事業等旅費	512
需用費	食糧費	106
役務費	通信運搬費	469
委託料	企画事業業務等	3,407
合計		49,732

B. 本の販売等に係るもの

科 目		金 額
役務費	手数料（クレジットカード決済手数料）	216
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	23,394
	（うち書籍仕入分）	7,994
	（うち販売返品業務等分）	15,400
合計		23,610

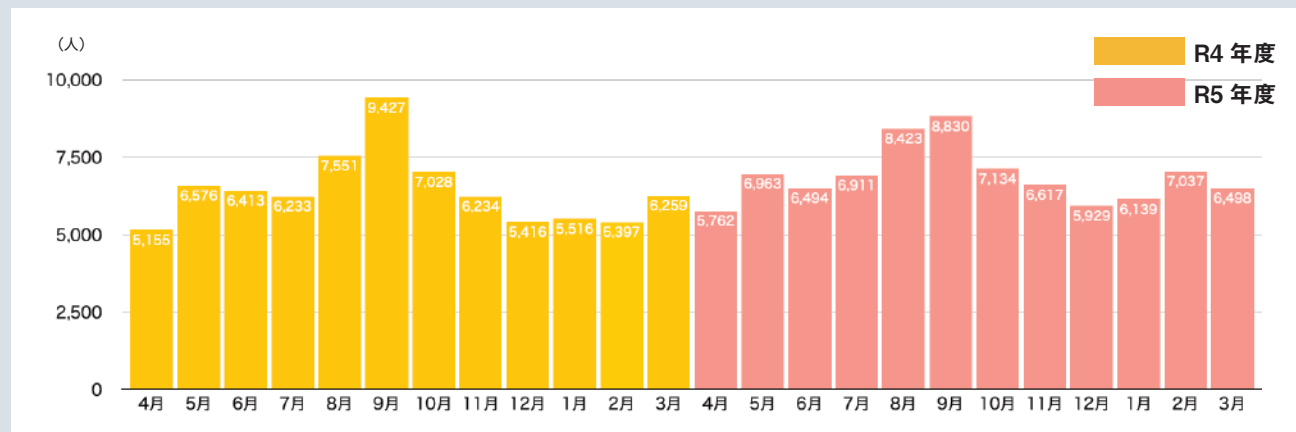
C. 建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの

科 目		金 額
需用費	消耗品費	651
	印刷製本費	47
	光熱水費	1,234
	修繕料	92
小 計		2,024
役務費	火災保険料等	80
	小 計	80
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,103
	その他（ホームページ運用保守業務等）	1,166
	小 計	3,269
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,629
	その他（複写機使用料等）	1,200
	小 計	16,829
備品購入費	庁用備品購入費	56
	小 計	56
合計		22,258

歳出合計A+B+C 95,600

参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移

来館者数

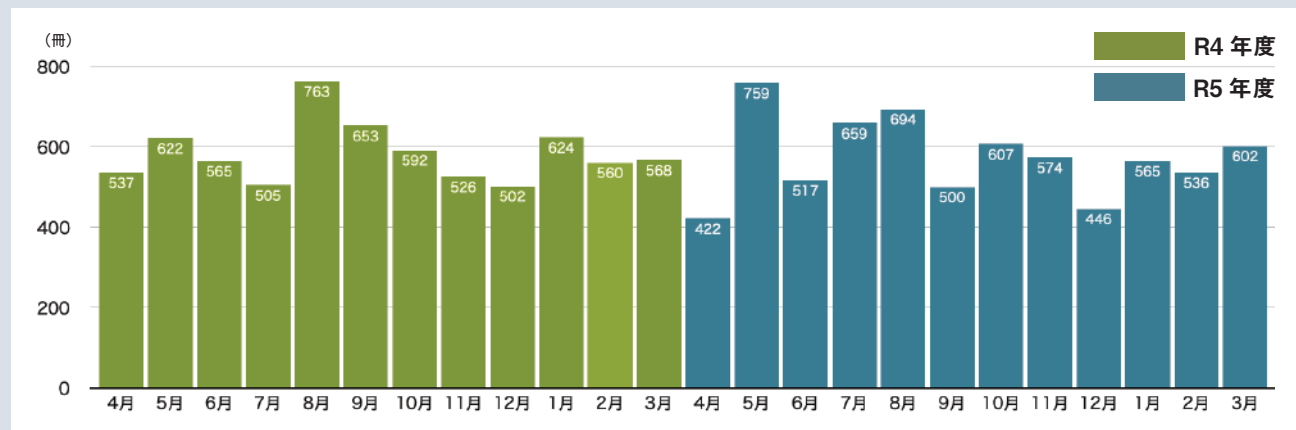


来館者数

	累計	月平均	1日平均
令和元年度	109,560人	9,130人	355人
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人
令和4年度	77,205人	6,434人	251人
令和5年度	82,737人	6,895人	270人

※令和2年4月29日～5月10日、令和4年1月25日～3月22日の期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により休館

販売冊数



販売冊数

	販売冊数	月平均	1日平均
令和元年度	8,948冊	746冊	29冊
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊
令和4年度	7,017冊	585冊	23冊
令和5年度	6,881冊	573冊	22冊

販売金額（書籍のみ）

	販売金額	月平均	1日平均
令和元年度	13,489,446円	1,124,120円	43,655円
令和2年度	10,694,146円	891,179円	35,886円
令和3年度	9,672,553円	967,255円	37,202円
令和4年度	11,078,017円	923,168円	35,968円
令和5年度	10,861,054円	905,088円	35,378円

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出